

科目名	人間と哲学 Introduction to Philosophy						
科目担当者	渋谷 昌雄 SHIBUYAMA Masao						
単位数	2	配当年次	1 年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 〔区分〕	法学部・法律学科〔総合教育科目 人間形成〕 経営学部・経営学科〔総合教育科目 人間形成〕					ディプロマポリシーとの関連	(1)(2)
授業の概要	<p>講義内容を「生命の哲学」「性の哲学」「死の哲学」に区分し、動画・DVD などを使用して具体的場면을考察する。その際、過去の哲学者の知恵を借りながら（哲学史に陥らないように）、現代の哲学的問題を考察したい。</p> <p>人間の「生命」「性」「死」について考えるとき、他の生命との比較は必然的であるが、最終的には人間の尊厳へと問題は集約していく。</p> <p>本授業では応用哲学、臨床哲学の内容をもっているが、従来の哲学のよう訓詁的思想をめざしていない。あくまで現代に生きる我々の問題に意識を近づけたい。</p>						
授業の到達目標	<p>①「生」と「死」、「性」について多様で多面的な考え方を学ぶ。</p> <p>②授業毎のまとめ・質問・発表によって、自分の意見を論理的に伝えることを目指す。</p>						
授業計画・内容	1	オリエンテーション 哲学とは？ 人間とは？					
	2	生命の哲学① 人間の生命と自然					
	3	生命の哲学② 命の教育 動画「にわとりを食べるまで」					
	4	生命の哲学③ 命の教育 動画「ブタがいた教室」					
	5	生命の哲学④ DVD 教材「終わりのない生命の物語」Ⅱ 第一巻と第二巻					
	6	生命の哲学⑤ 上掲第三巻と四巻					
	7	性の哲学① セクシャリティーとジェンダー LGBTIQ					
	8	性の哲学② 新しい生殖補助技術 人工授精 体外受精 代理母等					
	9	性の哲学③ クローン技術の問題点					
	10	死の哲学① プラトン エピキュロス					
	11	死の哲学② キケロ ショーペンハウエル					
	12	死の哲学③ キルケゴール バタイユ ハイデガー					
	13	死の哲学④ ヤスパース サルトル					
	14	死の哲学⑤ ニーチェ 手塚治虫					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	毎回前もって授業内容をムードルに貼り出すので予習をし、専門用語の意味はあらかじめ調べておく（毎週 2 時間程度）。						
授業外学修 (事後学修)	毎回授業後に課せられた質問・課題を提出し、授業内容の要点を整理しておく（毎週 2 時間程度）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	授業毎の課題 定期試験					30% 70%	② ①
成績評価基準	<p>秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	適宜、資料を配布する。						
参考文献	授業中に適時紹介する。						
その他							